研究ノート

『宗定法要式』生類済度の卒塔婆書式例について

松 森

孝

雄

『宗定法要式』の生類済度の卒塔婆書式例では、「如是畜生発菩提心」とあり、 広く回向や祈願書式においても、

如是畜生発菩提心」と記されている。

問題提起

しかし、「如是」とは「是の如く」と訓ぜられ、「このように」と訳される。

例えば、『法華経』「序品」をはじめ多くの経典の冒頭においては「如是我聞」で始まり、「このように私は聞いた」

そこで「如是畜生発菩提心」を訓ずれば、「(まさに) このように畜生は菩提心を発す (べし)」となるであろう。

としてその後に所説の経文が示される。

は菩提心を発」すのかと。 しかし「如是畜生発菩提心」では、「如是」に相当する部分が不明瞭・不明確である。すなわち「どのように畜生

161

仮説

そこで「如是」ではなく「汝是」ではないかと仮説を立ててみる。

「汝是畜生発菩提心」=「(まさに)汝、是は畜生なり。菩提心を発す(べし)」ではないかと。

そこで先ず、この一文の出典はないかと『大正新修大蔵経』に当たったところ、『梵網経』の「盧遮那佛説菩薩心

若見牛馬猪羊一切畜生。應心念口言。 汝是畜生発菩提心。(『大正蔵』第二十四巻律部三 一〇〇九頁a)

とあり、

地戒品第十巻下」に、

若し牛馬猪羊、一切の畜生を見ては、應に心に念じ口に言ふべし。汝は是れ畜生なり、菩提心を起(ママ)す

べし。(『国訳一切経』)

と訓ぜられている。

すなわち、「汝は是れ畜生である」とまず目前の畜生に対し、 現状を認識させ、その上で「菩提心を発すべし」と

促しているのである。

菩提心」の「汝是」を「如是」と書くのは誤りである。(『日蓮宗事典』九三八頁で)とあり、裏付けられたものであ また原点にあたるなど進めていくなかで、『日蓮宗事典』の「修法」の中「畜類供養」の項において、「汝是畜生発

補足

がある。 しかしながら、「汝是生類発菩提心」とすると、 法務に携わる中、「畜生」の語は現代においては不適切であり、「生類」とすべきである、という指摘を受けること 出典が不明瞭になり、 また経典の一言一句を時代の変遷とともに

置き換えることが適当であるか否かは議論の余地なきように筆者は考えている。

163